

第4回 ふるさと創生大学を開催



↑ 第4回ふるさと創生大学を終え、吉村名誉学長との記念写真

12月1日（水）、本年度最後となる令和3年度広野町ふるさと創生大学を開催しました。

講師には、（福）光美会業務執行理事 鈴木 幸一様をお招きし、病気の治療や介護が必要となったときに、適切で効果的な医療・介護サービスを利用し、自分らしい生活を送るために必要なことについて分かりやすく説明をいただきました。

講義終了後は、全4回受講された10名の方に当大学名誉学長であります学校法人昌平翼総長吉村作治様から終了証書が手渡されました。

サージカルマスク寄附贈呈式を挙行



↑ マスクを寄贈する庄司社長（左）と遠藤町長（右）

11月12日（金）、サージカルマスク寄附贈呈式が広野町役場で行われ、東洋システム株式会社の庄司 秀樹代表取締役より遠藤智町長へサージカルマスク15万枚が手渡されました。

贈呈式では、遠藤町長は「コロナ禍に生きる私たちにとって町民の生命と財産を守る上で、マスクはとても貴重なもの。感謝の気持ちをもって着用させていただきます」と御礼のあいさつを述べました。

寄贈いただいたマスクは、コロナ禍における感染症対策など有事の際に使用する予定です。

環境省主催「FUKUSHIMA NEXT」奨励賞の受賞を報告



↑ 受賞を報告した中津社長（左）と遠藤町長（右）

12月4日（土）、㈱広野町振興公社代表取締役の中津弘文さんが、原発事故の風化防止、風評払拭に貢献する人を表彰する環境省主催の「FUKUSHIMA NEXT」において「奨励賞」を受賞したことを遠藤町長に報告しました。

中津代表取締役をはじめ㈱広野町振興公社の職員は、平成30年より、町の新しい特産品として「綺麗」の愛称として知られているバナナを温室で栽培し、広野町の地域振興への貢献が評価され、この度「奨励賞」を受賞しました。

つなぎ放水訓練を実施



↑ つなぎ放水訓練の様子

11月28日（日）、広野町消防団は下浅見川本町地区でつなぎ放水訓練を実施しました。つなぎ放水訓練は、火災現場から消火用水源が遠い場合を想定し、素早くホースを繋いでいく訓練であると同時に、ホースやポンプの点検も併せて実施されます。今回の訓練は、自然水利の中継送水訓練を実施し、迅速な行動・動作と基本に忠実な操作により機械器具への精通を深め、有事即応体制の確立を図るとともに、住民の火災予防意識の高揚を図ることを目的として実施しました。

生涯学習発表会を開催



↑ 生涯学習発表会の様子

12月5日（日）、広野町中央体育館を会場として、広野町生涯学習発表会を開催しました。町文化協会加盟団体を中心に、今回初参加となる広野みかんクラブ空手道部をはじめ、早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチを含む9つの団体に参加いただきました。会場では、各種団体が趣向を凝らした踊りや音楽を披露し、観客が一体となり大いに盛り上がりました。

開会式では遠藤町長が挨拶し、北郷議会議長が祝辞を述べました。

いわきFC大倉代表らがシーズン終了を報告



↑ いわきFC大倉代表らとの記念写真

12月14日（火）、いわきFCの大倉 智代表取締役ら選手2名が広野町役場を訪れ、今シーズンの成績を遠藤智町長に報告しました。

今期のいわきFCは、昨季の悔しさと「原点回帰」の思いを胸に、チーム一丸となり快進撃を重ね、見事来季のJ3昇格を勝ち取りました。

大倉代表は、「地域の光となれるよう全身全霊で頑張っていきたい」と今後の抱負を語りました。

J3でのますますの活躍を期待しております。

広野小学校が岐阜市内の小学校と交流事業を実施



↑ 岐阜市との小学校同士のオンライン交流の様子

11月19日（金）、広野小学校の6年生の児童38人は、岐阜市立華陽小学校と長森北小学校の児童とオンラインで交流しました。

岐阜市とは、東日本大震災以降、復興に向けた支援として令和3年度までで16名の派遣をいただいております。本年4月には、災害時相互応援協定に関する協定を締結し、交流を深めております。

岐阜市との小学校同士の交流事業は、今後定期的開催され、震災からの復興と町の未来についての探求学習などを行う予定です。

みかん狩りを開催



↑ みかん狩りに参加したみなさん

12月17日（金）、広野町役場の西側にある「みかんの丘」で、町民参加のみかん狩りを行いました。約100名が参加し、大きく甘く育ったみかんを、持参した袋がいっぱいになるほど収穫しました。また、この日以外にも児童館児童やこども園児によるみかん狩りが行われ、大きなみかんを探して、みかんの丘の下から上まで走り回って探検していました。子どもから大人までみかん狩りを楽しみました。